

2 実践事例（4）

遊佐町立吹浦小学校

研究の目的

本校は令和元年度から2年計画で「学ぶ楽しさを味わい豊かに考える子どもの育成」を目指した研究に取り組んでいる。資質・能力の育成のための手立てとして「見方・考え方を働かせて豊かに考える授業づくり」に力を入れていきたい。研究を進めるにあたり次の3つの観点の具現化を図るための手立てを考察していく。1つ目は「わかっていくこと」「探究すること」が「楽しさ」の中心になる授業。2つ目は友達の考えの良さに気付いて認め合う授業。3つ目は達成感や満足感を味わう授業である。今年度は、主体的・対話的で深い学びにおけるICTの活用方法を研究項目に加え、「考えることが繰り返されて学ぶ意欲が高まる授業づくり」を目指していく。

実践紹介

特定の教科等において、より効率的・効果的な活用例

【算数】

【見通す段階で、友達のノート（考え）を共有する場面】

・iPadに標準装備されている「メモ」を使用し、Airdrop機能でノートに書いた考えを共有化した。これまでは学び合いの時間に、分かっている児童だけが説明してしまうことが多かったが、ノートを読む活動を取り入れたことで一人一人が見通しを持つことができるとともに、友達の考えを比較して考えることができた。〈写真1〉



〈写真1〉

【音楽】

【曲の特徴にふさわしい表現を工夫する場面】

・iPadの「GarageBand」を活用し、メロディーに合ったリズムを作る活動を実践した。打楽器のリズムを表情を付けて演奏することは実際の場面では難しいが、演奏を聞き比べ納得いくまで何度も変更することができた。



〈写真2〉

【図工】

【表現に応じて経験や技能を総合的に活かす場面】

・「Keynote」でスライドを作成し、それを「iMovie」でビデオに変換することができた。スライドを活用することでアニメーションを自由に動かすことができ、自分のイメージを膨らませることができた。〈写真2〉

【英語・国語】

【個別に練習を行う場面】

・カメラ機能を活用し録画することで、音声や動きを確認することができた。音読や発表の仕方を練習したり、英語の発音練習をしたりすることができた。何度も繰り返し確認できるため自分のペースで練習することができた。〈写真3〉

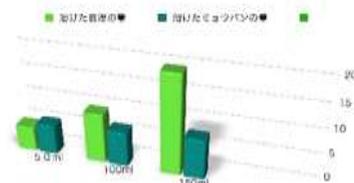


〈写真3〉

教科等によらない汎用的な活用例

【一斉学習】

- ・資料から考えさせたいときなど、「Numbers」を活用してグラフを作成し、電子黒板に提示すると効果的だった。身近な数値をグラフ化することで、より説得力のある課題提示ができた。〈写真4〉
- ・「Keynote」を活用して、課題提示の場面で身近な事象に置き換えて提示すると効果的だった。



〈写真4〉

【個別学習】

- ・まとめの学習を行うときには「Keynote」や「Pages」が有効だった。目的を持って活動に取り組むことで、必然的にタイピング技能を身につけたいと感ずることができた。自由にレイアウトすることが容易であり、日常のノート代わりに活用することができた。〈写真5〉
- ・文字を読んだり、記憶したりすることが必要な場面では、アナログのラインマーカーのように「Keynote」を活用すると効果的だった。単に文字を追うだけでなく、内容を理解して読み取ることができた。

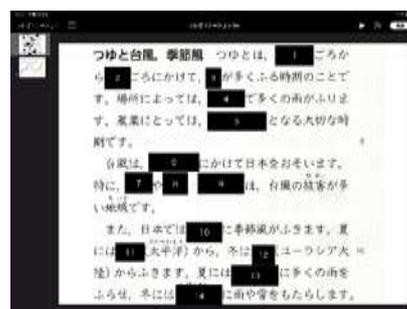


〈写真5〉

- ・ある程度自由にタブレットを活用する時間を設定することで、友達同士で活用方法を考えることができた。教師一人でスキルを習得させようと思わない方がよいと感じた。

【協働学習】

- ・スタイラスペンを使い、見せたいところを拡大して分かりやすく説明することができた。説明するのに必要な図を描いたり、教科書の図をスキャンしたりすることで必要な情報を選んで活用することができた。〈写真7〉
- ・全体での話し合いでは、100インチの電子黒板を活用し、自分のノートをミラーリングして説明することができた。電子黒板は必要な情報を直接書き加えることで、より分かりやすい説明を行うことができた。複数の画像を順番に並べて説明する児童もいた。
- ・メモアプリを活用して、ノートに記述した振り返りを友達と共有することで、新たな問いやこだわりが生まれた。また、振り返りを教師のタブレットに送信させたことで、一人一人の学びを確認することができた。



〈写真6〉



〈写真7〉

成果・次年度に向けて

- ・全ての教科で活用したことで、ICTの学習スキルが高まり日常的に活用できるようになった。パソコンを使うことが目的ではなく、「この活動ならこのアプリが使える、こんなふうに使われる」といった具体的なイメージを持って学習に取り組むことができるようになった。
- ・ICTを活用して学び合いを行った方が、相手意識を持って説明したり、わかりやすく説明したりしようという意識が高まった。協働で学習する良さを実感し学ぶ楽しさを実感することができた。
- ・来年度は、「協働学習」を更に深めたい。電子黒板に全員分の考えを表示することは可能だが、実際は小さすぎて見えない。自分のICT機器上で友達の考えをリアルタイムで確認させることで、ツールとしてより活用できるようにしていきたい。